

飛鳥資料館 秋期特別展 「よみがえる飛鳥の工房—日韓の技術交流を探る」

飛鳥寺の東南にあった近世の溜池「飛鳥池」の池底の発掘調査では、膨大な廃棄物層、多数の炉跡などが次々とみつき、これまでに前例のない古代の総合工房遺跡の姿があらかになりました。出土した木簡からは、飛鳥池工房遺跡が飛鳥の宮廷や古代国家を物質面で支えた一大工房群であったと考えられます。

近年、韓国でも生産工房遺跡の調査が進み、飛鳥と百済のガラスの生産技術の類似性や親近性があらかになりつつあります。そこで、今回の展覧会では、膨大な出土品の中から、日韓の文化交流や技術交流の実態を示す金銀やガラス、銅製品等を中心にご紹介します。奈良文化財研究所が実施してきた発掘調査の中でも白眉と言ふべき飛鳥池工房遺跡の調査研究の成果と、日韓共同研究の成果をご覧ください。 (飛鳥資料館 石橋 茂登)

会 期：10月5日(金)～12月2日(日) 月曜休館(10月8日(月・祝)は開館し翌平日を休館)

開館時間：9：00～16：30

イベント：11月9日(金)13：30～「古代の木工技術に迫る」 ※事前申込制

ホームページ： <https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問い合わせ： ☎0744-54-3561



編集 「奈文研ニュース」編集委員会
発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>
Eメール jimu@nabunken.go.jp
発行年月 2018年9月